

「わびしい」の意味分析

加藤 恵梨

キーワード 「わびしい」、「さびしい」、感情形容詞、多義語、比喩

1. はじめに

「わびしい」はマイナスの感情を表す形容詞である。山口（1982）で指摘されているように、日本語においては、プラスの感情を表す形容詞（「うれしい」、「たのしい」など）よりもマイナスの感情を表す形容詞（「かなしい」、「さびしい」など）のほうが多く存在する（p.210）。¹⁾ このように、日本語ではマイナスの感情がさまざまな形容詞によって表現されるため、それらの語の意味及び意味の違いについて考え、明示する必要がある。しかし、管見の限り、辞書や先行研究を見ても十分な記述がされているとはいいがたい。本稿で取り上げる「わびしい」においても同様である。よって本稿では、実例を分析することにより、現代日本語における「わびしい」の意味を明らかにするとともに、「わびしい」の類義語としてしばしばあげられる「さびしい」との意味の違いについても明示することを目指す。

2. 辞書における「わびしい」について

2. 1. 「わびしい」の意味記述について

まず、辞書で「わびしい」の意味がどのように記されているかを確認する。下の『基礎日本語辞典』（1989）と『新明解国語辞典』（2005）の記述を見てみよう。²⁾

『基礎日本語辞典』

侘しい……生活、暮らし、風景、格好

必要なものが極端に乏しく悪条件にあるため、悲しくつらく感じるほどの強い心細さ。また、そのような感情を与えるほどの、ひどくみすばらしい

状態。(p.498)

『新明解国語辞典』

- ① 心を慰める(自分を受け入れてくれる暖かい)ものが無くて、ものさびしい(様子だ)。寂しい。
 ② [ひどく貧しい暮らし向きで]心が晴れない(様子だ)。

(p.1610)

上の二つの辞書の記述を見ると、「必要なもの」や「心を慰めるもの」などが欠けていることによって「わびしい」という感情が生じると考えられている。『新明解国語辞典』では「わびしい」の意味記述に「さびしい」という表現が用いられているように、上の辞書の記述は「さびしい」の意味にも当てはまると考えられ、二つの語の意味の違いが明確な意味記述であるということとはできない。

2. 2. 「わびしい」と「さびしい」の意味の違いについて³⁾

では次に、「わびしい」と「さびしい」の意味の違いについての記述を見てみよう。

『基礎日本語辞典』では、「わびしい」は「さびしい」より、もっと感情性の濃い主観的な語であると述べられている(p.498)。

「わびしい」と「さびしい」の意味の違いについては4節で考察するが、結論を先取りして述べると、『基礎日本語辞典』の記述とは異なり、本稿では「さびしい」は「わびしい」よりも主観性の強い語であると考えられる。詳しくは4節で記述する。

3. 「わびしい」の意味分析

以下では実例をもとに、「わびしい」の意味分析を行う。⁴⁾

3. 1. 多義的別義(1):〈ある対象に〉〈求める条件が欠けていることに〉〈満足できず、気持ちが沈む〉〈さま〉

下の4つの例を見てみよう。

- (1) ファスト・フードのハンバーガーは、心身ともにわびしくなるばかりなので、それこそ年に数回しか食べないが、この店のハンバーガーは別物。

味・ボリュームともに、「食事」の要件を充足するもので、いつでも食べたいと思うものの一つ。

(http://nayamaz.hp.infoseek.co.jp/diarybn/020521_31.html)

- (2) 「このごろ昼はわびしくて」と、野菜ばかりの弁当箱をじっと見つめる牧野浩隆副知事。ひざを痛めて以来、運動不足がたたったか太り気味で、昼食はカロリー計算を徹底しているとのこと。(『沖縄タイムス』2005.1.6)
- (3) 私は(ニューヨークで)芝生にねころがってポーと過ごす時が好きだった。チップスを持って行けばカモメやリスと遊べるところもある。大きな街の中心でごろんと寝転がり、のんびりと蒼い空を眺められることは、日々ストレスだらけの生活を送っている人間には、大変良いシェルターとなるのだ。(中略) 帰国してこの国の街を何度となく歩いたが、疲れて休める場所が、喫茶店か固いベンチというのでは、あまりにもわびしい気がする。(<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~J-Tabi/jin/friend.htm>、()内は引用者)
- (4) 幸せな家には、家庭のニオイと言うべきものがあるのではないか。最近多いひとり住まいの家は、それが希薄だという点でもわびしい。

(『朝日新聞』2008.9.12)

まず例(1)を見ると、ファスト・フード店のハンバーガーは「心身ともにわびしくなる」のに対し、ある店のハンバーガーは「味・ボリュームともに、『食事』の要件を充足するもの」とある。このことから、「食事」に求める条件を満たしていないハンバーガーを食べても、心身ともに満足できず、気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。続いて例(2)は、以前とは異なり、昼食に野菜ばかりの弁当を食べていることを「わびしい」と感じている。これも、野菜ばかりの弁当を食べても満足できず、気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。次に例(3)は、話し手は歩き疲れた時、公園の芝生に寝転がって休みたいと思っているが、それに対し、喫茶店や固いベンチでは十分な休息をとることができず、気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。最後に例(4)の「わびしい」は、それぞれの家に「家庭のニオイ」があるという考えに対し、ひとり住まいの家では「家庭のニオイ」が希薄であることに満足できず、気持ちが沈むさまを表している。

以上から、「わびしい」の多義的別義(1)は、〈ある対象に〉〈求める条件が欠けていることに〉〈満足できず、気持ちが沈む〉〈さま〉であるということが出来る。

3. 2. 多義的別義 (2) : <ある人の言動が> <分別を欠いていることに> <気持ち がちが沈む> <さま>

下の4つの例を見てみよう。

- (5) (前略) それに類する「ビビンバではなくビビンパだ」などのくだらない主張をしてはと我にかえったときってかなりわびしいものがあります。
(<http://www.aosisclub.com/wine/pc01.html>)
- (6) 30にもなって2500円くらいのお金が気になるとは、とちょっとわびしくなる。
(<http://www.tikitikidivers.com/katsu/hitorigoto-nov-04.htm>)
- (7) 「宴会の予算が五千年残ったな。銀行に預金でもするか」「あんまりわびしいこと言うなよ」
(『現代形容詞用法辞典』、p.607の例(3)①)
- (8) 特別な計らいを交渉したり、喫煙所を探してうろたえたスモーカーたち。わが国の分別思想の足りなさが生んだ喫煙行動はおかしくも、わびしいものがあった。
(『沖繩タイムス』1998.3.25)

まず例(5)を見ると、「ビビンバではなくビビンパだ」というのは「くだらない主張」であり、自分がそのような主張をすることに対して「わびしい」と感じている。続いて例(6)は、自分が30歳にもなってわずかな金額が気になることに対して「わびしい」と感じている。さらに例(7)においても、わずかな額のお金を銀行に預金しようという発言に対して「わびしい」と感じている。このようにここでの「わびしい」は、ある人が問題にする価値のないことを気にするというような、分別を欠いた行為に対して気持ちが沈むさまを表している。最後に例(8)は、スモーカーたちの行為を「分別思想の足りなさが生んだ」と考え、「わびしい」と感じているように、分別を欠いたスモーカーたちの行為に気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。

以上から、「わびしい」の多義的別義(2)は、<ある人の言動が><分別を欠いていることに><気持ちが沈む><さま>ということができる。

また、別義(1)と(2)の関係について考えると、別義(2)の「ある人の言動が分別を欠いている」というのは、別義(1)の「ある対象に求める条件が欠けている」ということの一様であると考えられる。よって、別義(1)と(2)はシネクドキー⁵⁾の関係にあるということができる。

3. 3. 多義的別義 (3) : <生活や社会などに> <精神的な豊かさがいないことを> <嘆く> <さま>

下の4つの例を見てみよう。

- (9) 「自分の身は自分で守れ」という言葉が身に染みてくる。しかし、自分以外に頼れる人がいない社会なんて、実にわびしいものであろう。人間は助

け合い、協力し合って生きていくものである。

(『沖繩タイムス』1998.9.13)

- (10) 「義理」とは自分の利害を棄てて人の道に生きること、「人情」は他者に対する思いやりといつくしみである。それがなくなれば、まことにわびしい世の中になる。
(『読売新聞』2008.4.16)

- (11) 貴重な一日を、労働時間プラス通勤時間にほとんど費やし、自宅へ帰って寝るだけの毎日では何ともわびしい。もっと自分の自由時間を増やし、ゆとりのある生活を考えるとときではないだろうか。

(『スローライフ』、p.129)

- (12) (前略) 子供のためにとか、世間体のためにといった思いで、あきらめの一生を過ごすとすれば、何ともわびしい次第です。

(『40歳からの女性の医学』、p.129)

まず例(9)を見ると、「自分以外に頼れる人がいない社会なんて、実にわびしい」とあるように、今の社会の風潮に対する批判的な気持ちを「わびしい」と表している。すなわち、話し手の「人間は助け合い、協力し合って生きていくものである」という考えに反し、今の社会は人との精神的なつながりがないことを嘆くさまを「わびしい」と表していると考えられる。続いて例(10)においても、世の中には「義理」と「人情」が必要であるという考えに対し、そのような精神的な豊かさが失われた世の中になることを嘆くさまを「わびしい」と表している。次に例(11)では、話し手の「ゆとりのある生活」が必要であるという考えから、精神的な満足感を得ることなく、一日を過ごすという生活を嘆くさまを「わびしい」と表している。最後に(12)においても、「あきらめの一生を過ごす」ことに対して「わびしい」と感じているように、ある人の一生が精神的な満足感を得られないものであることを嘆くさまを表している。

以上から、「わびしい」の多義的別義(3)は、〈生活や社会などに〉〈精神的な豊かさがなく〉〈嘆く〉〈さま〉であるということが出来る。

また、別義(3)と他の別義との関係について考えると、別義(1)の「満足できず、気持ちが沈む」という感情と、別義(3)の「嘆く」という感情には、「満足できず、気持ちが沈む」ことによって「嘆く」という感情が生じるというような連続性が成り立っていると考えられる。よって、別義(1)と(3)は、単一の共有フレームを喚起し、そのフレーム内の互いに異なる段階を焦点化しているという、単一フレーム内における焦点移動と考えられるため⁶⁾、メトニミー⁷⁾にもとづく関係が成立しているということが出来る。

3. 4. 多義的別義 (4) : <ある対象の外観が> <一般的な状態よりも劣っていることに> <気持ちが沈む> <さま>

下の4つの例を見てみよう。

- (13) 打ち捨てられた家の姿は惨めでわびしい。この道沿いの廃屋も、どこで見ると胸に迫ってくるものがある。

(『こんなふうには四国八十八ヶ所を歩いた』、p.93)

- (14) 列車が走らなくなった路線には、雑草が生えて、わびしい光景をさらしている。

(『学校図書版完全準拠中学校国語 3年』、p.111)

- (15) 夜目にはその着ている物の色目もはっきりとは知れなかったが、筒袖も袴も洗いざらしのように色がさめて、袴の裾は皺だらけに巻くれあがっていた。そのわびしい服装に引きかえて、この少年は今夜の月に照らされても恥ずかしくないほどの立派な男らしい顔をもっていた。

(『玉藻の前』、青空文庫)

- (16) 名前のない墓標は、人間の無表情な顔にも似て、いかにもわびしく、哀れな気持ちを誘う。

(『沖繩タイムス』1999.9.10)

まず例(13)は、廃屋の姿に「わびしい」と感じている。これは、もともとの家の姿をとどめていないほど、荒れ果てた家の様子を見て気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。続いて例(14)は、路線に雑草が生えているさまに「わびしい」と感じている。これも、列車が走っている路線に比べ、荒廃した路線の状態を見て気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。次に例(15)の「わびしい服装」とは、色がさめ、皺だらけに巻くれあがっている服装のことである。ここでは、一般的な服装よりも劣っている服装に気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。最後に例(16)は、墓標に名前があることが一般的であるという見解から、名前のない墓標が劣っていると感じられ、気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。このように例(13)から(16)は、主体が考える一般的な対象の状態と比較して、ある対象の外観がそれよりも劣っていることに気持ちが沈むさまを「わびしい」と表している。

以上から、「わびしい」の多義的別義(4)は、<ある対象の外観が><一般的な状態よりも劣っていることに><気持ちが沈む><さま>ということができる。

また、別義(4)と他の別義との関係を考えてみると、別義(1)の「ある対象に求める条件が欠けている」というのはある対象の内容に関することであり、別義(4)の「ある対象の外観が一般的な状態よりも劣っている」というのはある対象の外観に関することである。初山(2002)は、「頭を抱える」という句について、<困りはてる>という精神状態と<頭を抱える>という動作が、一人の人間において同時に生じる場合があることに基づき、字義どおりには動作を表す「頭

を抱える」という表現を用いて、精神状態をも表すというメトニミーに基づく慣用的意味であると説明している(p.133)。本稿の別義(4)と(1)についても、ある対象に関して、「ある対象の外観が一般的な状態よりも劣っている」という対象の外観と、「ある対象に求める条件が欠けている」という対象の内容とが同時に生じていると考えられるため、別義(4)と(1)はメトニミーの関係にあるということができる。

3. 5. 意味分析のまとめ

以上の分析により、本稿では「わびしい」を下のような4つの多義的別義を有する語と記述した。

多義的別義(1)：〈ある対象に〉〈求める条件が欠けていることに〉〈満足できず、気持ちが沈む〉〈さま〉

多義的別義(2)：〈ある人の言動が〉〈分別を欠いていることに〉〈気持ちが沈む〉〈さま〉

多義的別義(3)：〈生活や社会などに〉〈精神的な豊かさがないことを〉〈嘆く〉〈さま〉

多義的別義(4)：〈ある対象の外観が〉〈一般的な状態よりも劣っていることに〉×〈気持ちが沈む〉〈さま〉

4. 「わびしい」と「さびしい」について

「わびしい」の類義語としてしばしばあげられるのが「さびしい」⁸⁾である。2節で見たように、辞書の記述では両語の意味の違いが明らかにされているとはいいがたい。よって、以下で両語の意味の違いについて考察する。

下の例を見てみよう。

(17) ある時、店長と「奥の壁がさびしいなあ。写真でも飾ろうか」と話をしたのがきっかけで、壁は作品の展示スペースに変わった。

(『読売新聞』2005.11.16)

(18) 行事の時、時間になるとご住職が帰るのは寂しい。最後まで残ってご苦労さんと町の人に声をかけて欲しい。

(『読売新聞』2005.11.20)

(19) 「このごろ昼はわびしくて」と、野菜ばかりの弁当箱をじっと見つめる牧野浩隆副知事。ひざを痛めて以来、運動不足がたたったかたり気味で、昼食はカロリー計算を徹底しているとのこと。

(例(2)再掲)

(20) 「自分の身は自分で守れ」という言葉が身に染みてくる。しかし、自分以

外に頼れる人がいない社会なんて、実にわびしいものであろう。人間は助け合い、協力し合って生きていくものである。(例(9)再掲)

(21) 口がさびしい。

(22) ?? 口がわびしい。

まず、「さびしい」の例を見てみよう。例(17)と(18)の「さびしい」を「わびしい」に置き換えると不自然な表現になるであろう。例(17)の「さびしい」は、壁に写真などがかかっていないことに気持ちが沈むというような悲愴感を表しているとは考えられない。ここでは、壁に写真などが飾られている状態を思い描き、その状態を求めるさまを「さびしい」と表している。例(18)においても、「さびしい」と感じるものが「住職に最後まで残ってご苦労さんと声をかけて欲しい」という主体の思いと結びついているように、ある対象に欠けているものを求めるという意味を「さびしい」は表している。

次に、再度「わびしい」の例を見てみよう。例(19)と(20)の「わびしい」を「さびしい」に置き換えると不自然な表現となるであろう。例(19)の「わびしい」は、野菜ばかりの弁当では満足できず、気持ちが沈むさまを表している。このように、「わびしい」はある対象に何らかの要素が欠けていることによって気持ちが沈むさまを表すのであり、「さびしい」のように欠けている要素を求めるという意味は表さない。しかし、「わびしい」は「気持ちが沈む」という心的状態からすすんで、例(20)のように、ある対象に何らかの要素が欠けていることを嘆くという意味も表す。

このように、「さびしい」は主体がある対象に何らかの要素を求めることによって生じる感情であるため、例(21)のように「口がさびしい」ということができるが、何らかの要素を求めるという意味を含まない「わびしい」は例(22)のように「口がわびしい」ということはできない。

また、2.2節で見たように、『基礎日本語辞典』では「わびしい」と「さびしい」の違いについて、『わびしい』は『さびしい』より、もっと感情性の濃い主観的な語」と述べられていた。しかし、「さびしい」は主体がある対象に何らかの要素を求めることによって生じる感情であることから、本稿では「さびしい」は「わびしい」よりもより主観的な語であると考えられる。⁹⁾

5. まとめ

本稿では、実例をもとに「わびしい」の意味を分析することにより、「わびしい」に4つの多義的別義を認めた。さらに、その記述をもとに、「わびしい」の

類義語としてしばしばあげられる「さびしい」との意味の違いを示し、「さびしい」は「わびしい」よりもより主観的な語であると指摘した。

注

- 1) 山口では、現代のみならず、上代・中古・中世の各時代を通じて、不快な感覚・感情を表す語は、快い感覚・感情をあらわす語に比して、抜群に多いと述べられている (p.210)。
- 2) 以下では、直接の分析対象となっている語は下線で示し、それ以外の問題となる言語形式は二重下線で示す。
- 3) 「わびしい」と「さびしい」は類義語としてしばしばあげられるが、両語の意味の違いについて明確に述べられている先行研究は管見の限り、ほとんど見られない。
- 4) 本稿では「わびしい」を多義語と考える。國廣 (1982) は、多義語を「同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」(p.97) と定義している。
- 5) 初山 (2002) はシネクドキーを「より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆に、より特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩」(p.69) と定義している。
- 6) 西村 (2002) は下の二つの例について、aとbのlockは、施錠することに関する一般的な知識(一種のフレーム)全体を喚起する点は共通しているが、そのフレームの中のどの面(施錠行為全体のどの段階)に焦点を合わせるかにおいて異なっていると述べている (pp.293-295)。

②3 a. I locked the door. (西村、p.294の例 (21a.))

b. I locked the room. (同の例 (21b.))

具体的には、〈(部屋などの)空間への(ドアなどの)出入り口を閉鎖の状態に固定することによって、空間への侵入または空間からの脱出を阻止する〉というフレームのうち、aの焦点がI〈空間への出入り口を閉鎖状態に固定する〉という段階にあるのに対して、bはII〈空間を出入り不可能な状態にする〉という段階を焦点化しているため、IとIIの間に手段と目的というメトニミーの関係が成立すると記されている。

- 7) 初山はメトニミーを「二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩」(p.76) と定義し

ている。

- 8) 加藤 (2004) では、「さびしい」の意味を〈感じ手が〉〈ある対象と別の対象とを比較し〉〈ある対象にあるべきものが欠けていることに対して〉〈心が満たされず、欠けているものを求めているさま〉と記述した (p.63)。
- 9) 「さびしい」が主観性の強い意味のみを表すというのではなく、比喩などによって意味が拡張することにより、客観性の強い意味も有すると考えられる。

引用文献

- 加藤恵梨 (2004) 「『かなしい』と『さびしい』の意味分析」『日本語教育』121号、pp.56-65
- 國廣哲彌 (1982) 『意味論の方法』、大修館書店
- 西村義樹 (2002) 「換喩と文法表現」『認知言語学 I : 事象構造』(西村義樹編)、pp.285-311、東京大学出版会
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』、東京堂出版
- 舩山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』、研究社
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』、角川書店
- 山口仲美 (1982) 「感覚・感情語彙の歴史」『講座日本語学 4 語彙史』、明治書院
- 山田忠雄〔主幹〕(2005) 『新明解国語辞典 第六版』、三省堂

例文出典

- ①検索エンジン google (<http://www.google.co.jp>)
- ②青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/cards/000082/files/480.html>)
- ③朝日新聞
- ④沖縄タイムス
- ⑤小西重康 (2001) 『こんなふうには四国八十八ヶ所を歩いた』、文芸社
- ⑥新野博子 (2007) 『40歳からの女性の医学』、海竜社
- ⑦中川光央 (2004) 『スローライフイタリアのラテン生活のススメ』、文芸社
- ⑧みずうみ書房 (編) (2006) 『学校図書版完全準拠中学校国語 3年』、文理社
- ⑨読売新聞